

## ひろげる・つなぐワーキングに参加して

個人正会員 小松崎 暁子

こんにちは。私は CNCPC のホームページを制作させていただいたことがご縁で個人会員となり、昨年  
から「CNCPC アワード」事業に携わっております。

先日、このアワードの選定委員長をお引受けいただいた、メディア社会学がご専門の粉川一郎教授のお  
話を伺った折りに、アワードの応募を増やすには、まず CNCPC の活動を知ってもらうことが必要とのお  
話があり、その後立ち上がった CNCPC 広報グループ「ひろげる・つなぐワーキング」にも私は参加する  
ことになりました。

「ひろげる・つなぐワーキング」の活動は、リーフレットやホームページを使って CNCPC をもっと広  
く認知してもらうため、まずは CNCPC の活動内容を表す端的な説明文を作ることから始まりました。

そもそも「土木」という言葉は正しく理解されているのか、「シビル・エンジニア」はどうか。また「建  
設」はどうか。「どぼく」「ドボク」「DOBOKU」という表記の仕方。「インフラ?」「社会基盤?」  
中学生にも分かるような文章で説明したい、などの意見が出されました。

CNCPC が掲げる「中間支援組織」という使命も一言で表現するのは難しく、これまで産学官が社会基盤  
整備を担ってきたが、これからは「市民」という立場で関わりを持ち、共にまちづくりをする時代を推し  
進めるのも CNCPC の役目、などとなると、盛り込みたい内容が膨らみ過ぎて、簡潔にまとめるのは益々  
難しく、様々な意見で白熱していた時に一人のメンバーが口にした言葉がありました。

「道路や橋に花を植えることも産学官+民ですよ?」

すっっと肩の力が抜けた思いがしました。

粉川一郎教授もおっしゃっていました。「インターネットの時代とは言え、大切なのは人と人のつなが  
りなんですよ。」と。

人はみんな違う経験を重ね、違う専門知識や技術を積み、それぞれの人生を歩んで今に至る。花を育て  
るのが得意な人がいて、ある日、道路整備や河川工事が専門の人たちと出会い、土手や川岸に花壇を作っ  
て憩いの場となり、川と共に暮らすことを考え始める。

自分が社会の一員としてできる役割は何か、を常に頭の隅においておくと、必ずや出番がやって来て、  
それまで接点のなかった人々に出会い、つながって、まちが住みよくなり、さらに満たされた人生になっ  
ていくのです。それが産学官+民の神髄だと感じたわけです。

これからも、この必然の出会いをひろげる・つなぐために、CNCPC の活動に関わっていきたいと思っ  
ています

